

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670200421	
法人名	社会福祉法人 平成記念会	
事業所名	グループホーム鳴門	
所在地	鳴門市撫養町木津445-1	
自己評価作成日	平成23年6月23日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成23年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、積極的に地域との交流を図っており、ボランティアの受け入れなども行っている。また、植物を育てたり、家事を手伝っていただいたりしており、本人の生活習慣を日課に取り入れ生き甲斐に繋がるよう個別支援を行っている。また、行事の内容を工夫し、定期的な行事であっても毎年異なるプログラムを楽しんでいただけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、街道に面した住宅地に位置しており、周囲には神社や寺院がある。管理者や職員は、利用者が地域で、尊厳に満ちた自由な暮らしを継続して送ることができるよう取り組んでいる。事業所は、利用者と地域住民との交流を積極的に支援し、地元の行事への参加やボランティアの受け入れ、防災時の婦人会との協力体制等に取り組んでおり、利用者が安心して暮らすことができるよう地域との関係を構築している。また、運営推進会議には、町内会長や婦人会、地域の警察官、消防署員、民生委員、介護相談員、市担当者等の参加があり、意見交換や勉強会等を活発に行っており、地域に開かれた会議や研修の機会としても機能している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、全職員で、申し送り後に理念を復唱し実践に繋げている。特に地域の方と交流を持つ大切さを意識するよう取り組んでいる。	利用者が、その人らしく自由に尊厳ある暮らしを送ることができるよう事業所独自の理念を掲げている。管理者や職員は、申し送りの際、理念について話しあって共有化を図り実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣ボランティアの方と、散歩やレクリエーションを通して交流している。	利用者は、日ごろの散歩や地域住民との付き合いのなかで、挨拶を交わしたり、気軽に話しあったりできる関係を構築している。地域の行事や敬老会、災害訓練等、事業所の行事に協力を得ており、双方向的な交流を活発に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回、自治会や地元老人会で認知症の話をさせていただき、理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で取り組み状況の報告を行い、会議に出席できなかった職員も議事録に目を通してしている。	運営推進会議には、多数の参加者を得ており、事業所からの現況報告や情報交換等を行っている。また、防火安全体制について、車椅子の移動方法等の具体的な対応策を工夫し、活発に意見交換を行う機会となっている。議事録も詳細に記録している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な報告に伺う他、電話での相談にも随時応じてもらっている。	毎月の現況報告時等に指導を得たり、疑問に思うことを相談したりして、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放している。また、身体拘束についても、定期的に勉強会を開き理解を深めている。	管理者や職員は、利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識にたち、身体拘束をしないケアに努めている。利用者や家族、地域の方々が自由に出入りできるよう日中は開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を実施し、知識を身に付けることで虐待防止に努めている。また、介護相談員を受け入れている。身体的虐待だけが虐待ではないと認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会その他、推進会議の中でも議題を上げ、地域包括支援センターや市担当者に教えてもらい、実際に相談に対応できるようにしている。また、市の相談窓口の案内も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際には理解していただけるように十分に時間をとり、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回のアンケート実施と、意見箱の設置を行っている。また、介護相談員からの聞き取りも行っている。	日ごろの会話や面会時に意見や要望を気軽に言える関係づくりに努めている。また、意見箱を設置したり、介護相談員の来訪時に聞き取りを行って、出された意見や要望等を運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員会議を行い話し合いの場を持っている。	管理者は、職員と気軽に話しあえるようコミュニケーションの機会を大切にしている。月1回、職員会議を開催し、意見や提案を出しあって話し合い、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間の確保と一人ひとりの能力を活かせる役割分担を担っている。年1回、人事考課を行い、職員の努力や能力を反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験等に応じた研修を受けている。非正規職員でも順番に研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に参加しあったり、電話で連絡するなどして交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に必ず本人に会い、不安や困っていること、要望等について聞き取りを行って把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には十分な時間を取って、聞きとりを行い、サービスに繋げることで関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の見学や本人の面談を通して、事業所での生活が適しているかを見極めるようにしている。また、選択肢としてアドバイスを行う場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員でともに家事をしている。職員は、植物の栽培や編み物、生活の知恵等を教わり、相互関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族会でともに過ごす時間を設けたり、面会時には近況報告を行ったりしている。また、本人に対しての支援にも協力いただけるよう声をかけ、関係が途切れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診や美容室、近所への散歩、ドライブなど、本人の要望や状態、頻度を見て外出支援を行っている。	行きつけの美容院や喫茶店、かかりつけ医の利用を継続したり、地域行事の集まりや老人会の行事等積極的に参加したりして、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握している。食卓の席順や外出時の配車等に注意し、孤立を防ぐよう配慮している。また、利用者同士の関係がうまくいくようレクリエーション等で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず入院に至った際には、お見舞いに行くようにしている。また、外出先でお会いした際には、挨拶を交わし近況等を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にセンター方式の見直しを行い、会話のなかから意向の把握に努めている。	利用者との関わりのなかで希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、表情や態度から思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から聞き取りを行い、昔の話や好きな物等を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居の状況を見て、レクリエーションの希望や行きたい場所等を把握し、意向にそうよう対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスの実施により、状態の変化に応じた介護計画を作成している。本人や家族、かかりつけ医、職員等の意見を計画に反映している。	本人や家族の意見や要望を取り入れ、関係者と話しあったうえで、本人がより良く暮らすための介護計画書となるよう留意して作成している。毎月モニタリングを実施し、見直しや確認を行っている。また、家族の同意も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化に気づきをもてるよう、詳しい記録を心がけている。また、バイタル等のチェック表や申し送りノートを使い、確実に情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事の際、職員の出勤人数を増やすなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にボランティアとして来訪していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、利用者一人ひとりの状況等に応じ協力医療機関等の受診を支援している。	利用者や家族の意向に応じたかかりつけ医の受診を支援しており、職員が同行している。他科の受診時には、家族に連絡し協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と連携を密に図り、体調の変化に早期に対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	やむを得ず入院に至った際には、相談員等と情報交換を行っている。入院による心理的ダメージをなるべく防ぐよう努め、早期退院に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、本人屋家族と話しあっている。重度化や看取りに関する説明を行って家族の同意を得ている。また、早い段階から重度化した場合や終末期に関する家族の意向を聞き、話しあうよう努めている。	重要事項説明書に重度化した場合や終末期のあり方に関する指針を明記している。入居契約時には、利用者や家族に説明して話しあううえで同意を得ている。利用者の日ごろの状況を把握し、段階的に関係者と話しあって、連携を図ったうえで支援する体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの勉強会を行っている。また、緊急時のマニュアルを見やすい位置に掲示し、対応についての勉強会も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。また、地域の方に協力を呼びかけ、訓練にも参加していただいている。	年2回、防災訓練を実施している。地域住民や地域の消防団の参加を得ており、通報訓練や避難誘導訓練、消火訓練、煙体験等を実施している。近隣住民には、利用者の誘導等を手伝ってもらうなどして協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの状態にあわせた声かけを行っている。トイレへの声かけや入浴、おむつ交換時にドアを閉めるよう注意している。また、勉強会も実施している。	個人情報や人権に関する研修会や勉強会を開催し、全職員が内容を正しく理解している。日ごろから、利用者の気持ちを大切に、プライドを傷つけない言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけにならないよう声かけには十分注意している。会話のなかで意向を聞き取り、自己表示しやすい声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分によって外出するように支援している。外出の機会を増やし、なるべく希望にそえるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、自分で衣服を選んでもらったり、好きな髪型をするなど、個性を尊重できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回、特別食で好きなメニューを加えたり、季節の食材を楽しんでいただいたりしている。利用者に食事の準備や片づけを手伝っていただいている。	月1回、好きなメニューを加えたり、季節の食材を取り入れたりして食事が楽しいものとなるよう工夫している。利用者と職員は、食事の準備や後片づけをともに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用して食事量を把握し、摂取量が少ない方には補食し、好きな物を出してみるなどの工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声かけや介助を行っている。また、利用者一人ひとりに応じて洗口液を用いている。口腔内をチェックし、状態によって歯科受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄パターンを把握し、本人の状態にあわせた声かけや誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。職員は、利用者の気持ちを大切に、自らの意思を表現できるよう自尊心に配慮した声かけや誘導を行い、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で排泄の有無を確認している。また、水分を多めに摂取し、体操や運動を取り入れている。便秘対策のお茶を飲んでいる利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分にあわせて入浴していただいている。入浴日でない日の入浴や入浴時間も希望にそえるようにしている。	利用者の体調や気分にあわせて、希望に応じた時間に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を持ち込んでいただき、本人が落ち着く照明の具合や室温等にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や用法、容量等を把握するようにし、管理にも十分注意している。また、服薬にはチェック表を用いて、本人の状態に応じ内服していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみ等、その日の状態に応じてお手伝いをお願いしている。また、趣味を活かし、余暇活動を通じて楽しみをもって生活していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく本人の要望にそえるようにしている。訴えがない場合にも会話のなかから聞き取り、職員が誘うようにしている。車椅子の方の外出の頻度は少ない。	利用者一人ひとりの習慣や楽しみに応じて、外出への希望を把握している。買い物やドライブ等を支援している。墓参りなどの外出は、家族の協力を得たうえで支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活用品や嗜好品の買い物や外食等ができるように預かり金を管理し、必要な時にすぐに対応できるようにしている。また、自分で支払いをされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持されている方もいる。年賀状を出し、手紙を書く機会も大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生花を飾り、環境を整えて居心地よく過ごせるよう配慮している。	ホールの窓からは、季節のうつろいや人々の行きかう姿が眺めることができる。職員は、ホールの壁に季節感のある花を飾ったり、利用者の作品を展示したりして、居心地よく過ごせる工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりテレビを見て過ごせるソファがあり、畳の感触を楽しめる空間もある。広いホールはレクリエーションや活動の場となっている。利用者一人ひとりが好きな場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品物や家具を身近に置き、安心して過ごしていただけるように配慮している。	利用者は、家族の写真や思い出の家具等を持ち込んでいる。職員は、利用者一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通行の妨げとなるような障害物を置かず、安全に移動していただけるようにしている。物品の定位置を決め、使用する人が把握できるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	名札の裏に理念を記載して携帯しており、つねに確認することができるようにしている。また、毎朝の申し送り時に全職員で復唱するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に運営推進会議に参加していただいている。また、日常的にボランティアの受け入れを行うことで親交を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で行っている取り組みを推進会議や地域の集まりの場で発表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議でいただいた意見をまとめた議事録を作成し、職員間で共有して現場で活かせるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な報告の他、そのつど電話等でも相談に乗っていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行っている。日中、玄関の鍵は開錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、個々に虐待防止に努め、意識して業務に当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を実施している。推進会議の中で議題に取り上げ、学ぶ機会を持つことで利用相談等に応じることができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約、契約時には十分な時間を取り、理解や納得を得られるようにしている。また、専門用語で画一的な説明ではなく、分かりやすい言葉で伝える等の工夫をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、アンケートを実施し、玄関に意見箱を設置している。また、介護相談員を受け入れ、聞き取りや相談に応じてもらっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員会議を実施し、意見交換する場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間の確保により、気分転換を図っている。また、人事考課を行い、職員の勤務状況を把握し、待遇面に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修を受けることができるようにしている。また、参加できなかった職員にも伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議への参加や連絡をとりあつて相談にのってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望を聞き取り、安心して生活が送れるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には十分な時間を取り、家族の思いについて聞き取り、方向性を確認してサービスを始められるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に必ず会い、事業所での生活が可能であるか、見極めるようにしている。また、家族や介護支援専門員の情報から他サービスの導入についてアドバイスさせていただくこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なことや昔の知恵を教わってともに過ごしている。できることは自分でしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からのケアだけではなく家族の協力も必要不可欠であり、事業所に入居しても関わりを持ち続けられるように一人ひとりに対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に出かけたり、自宅に帰ったり等、入居前の関係を維持できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士が関われるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先にお見舞いに行ったり、電話で様子を聞いたりしている。家族からの相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話や表情、仕草等から思いや意向を把握するように努めている。またセンサー方式を活用している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や職歴をケアのヒントにして支援している。入居時に聞き取りを行い、生活のなかで気づきをもつようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの能力に応じて、協力しあって生活している。利用者のできることを大切に、状態を維持できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態に応じて週1回カンファレンスを開催し、職員間で話しあっている。また、利用者に意向を聞き介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの会話や気づきをなるべく詳しく記録に残すようにしている。また、記録に目を通して情報を共有することで、ケアの方向性を統一したり、計画の見直しにも活かしたりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事の際には、職員の出勤人数を増やすなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や行事、ボランティアの受け入れを通じて、地域の方々の協力を得たうえで利用者の生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、利用者一人ひとりの状況等に応じ、職員の同行による協力医療機関等の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と連携を密に図って、利用者の健康管理に努めている。日ごろの生活のなかで些細な変化でも報告するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、主治医やケアマネジャー、ソーシャルワーカー等との情報交換に努めている。また、日ごろから関わりを持つ心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合や看取りに関する説明を行っている。日ごろからコミュニケーションを図り、状態の変化に応じてそのつど意向を把握するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法に関する勉強会を実施している。また、緊急時のマニュアルを分かりやすい位置に掲示し、早期に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している。また推進会議で近隣の方に協力を呼びかけ、訓練にも参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの状況や立場に立った声かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表現できるよう日ごろから信頼関係を大切にしている。また、声かけにも注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態や希望を聞き、レクリエーションや作業に参加していただいている。また、希望に応じて外食や散歩にも出かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、自分で衣服を選んでもらったり、好きな髪型をするなど、個性を尊重できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、ともに食事の準備や後片づけを行っている。また、月1回、特別食の日を設け、嗜好品や季節感を取り入れたメニューにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立をたてており、栄養バランスの取れた食事を提供している。食事量はチェック表で把握し、少ない方には捕食を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは職員が声をかけを行っている。その際、口腔内の観察を行って必要に応じて歯科の受診を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりのタイミングで声かけを行っている。また、オムツの使用にも検討を重ね、状況に応じて対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳を飲んでいただいたり、運動を心がけたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤やゆず湯、菖蒲湯等で季節を楽しめるよう工夫している。また、利用者一人ひとりの体調や気分にあわせて入浴を勧めるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度に身体を動かして、夜間はゆっくり休んでいただけるようにしている。不眠時には、職員が付きそったり、足浴を行ったりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに薬の種類や効能を綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。また、服薬確認も目視とチェック表で確認し、飲み忘れや間違いがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や能力に応じた役割を担い、レクリエーションや作業を行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地元の行事に参加したり、買い物に出かけたりしている。本人が希望する場所への外出は、家族に協力をお願いすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大きさを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金を管理し、必要に応じて対応している。本人とともに買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や季節の便りを出したり、本人と家族の希望で電話されたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめな換気や消臭を行っている。また、適切な湿度や温度管理に留意し、利用者が快適に過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い共有空間を活用し、本人が好きな場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダに利用者の家から持ってきた鉢植えを置きともに育てたり、季節に応じた壁飾りをしたりしている。季節を感じたり、馴染みのものに触れたりできるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護用品の適切な利用や手作りの物で工夫するなど、なるべく本人の能力を維持しながら生活していただけるよう配慮している。		